

2015年1月5日

イビデン株式会社 竹中社長の年頭挨拶

2015年1月5日午前8時00分より、各事業場に全役員が出向き、従業員を前に竹中社長が年頭の挨拶を行いました。また、テレビ会議システムを利用し、海外拠点(フィリピン、中国・北京、韓国、マレーシア、フランス、ハンガリー)との新年互礼会も執り行いました。要旨は以下の通りです。

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

2014年の世界は、民族や宗教による対立から争いが続き、地政学的なリスクが顕著になりました。経済面では、好調な米国を中心に回復基調にありましたが、中国・新興国の高成長にも陰りが見えはじめています。日本においては、年末の総選挙の結果を受けて、経済最優先の政策が継続されますが、少子高齢化や巨額な公的債務など大きな課題を抱えています。世界の変化が読みにくい、不透明ななかにあるものと感じています。

当社グループは、昨年は、「現地・現物・自掛り」を軸に、人材を鍛え、チーム力を高めることで事業の競争力の強化を目指しました。PKG事業においては、PKGとCSPの統合効果のもと、薄型・小型・ファイン化の最先端ラインでライバルをリードし、業績が大きく改善。セラミックでは、AFP事業は「故障ゼロ、歩留まり98%」を実現し、ハイレベルな事業運営で高収益体質を構築しました。しかし、まだまだ、多くの課題を残す一年だったと思います。

2015年は、中期経営計画「Challenge IBI-TECHNO 105 Plan」の折り返しの年に当たります。市場環境は厳しいものと予測されます。最終の2017年度に営業利益率15%を達成するため、引き続き「設備故障ゼロ」「歩留まり98%」の実現と正味率にこだわった改善活動に取り組みます。

競争力強化の手法は、「現地・現物・自掛り」です。一人ひとりが高い目標を掲げ、自分でやり遂げてこそ本当の力になります。自分たちのチームで課題を解決してこそ、チームワークも生まれます。成果は自信となり、新たな目標へチャレンジする機運も生まれます。当社ロゴマークにもある「正のスパイラルアップ」が実現されるのです。従業員の皆さんには、成果に向けて、組織の壁をこえて協力し合い、自ら熱意と志を持って進んで欲しいと思います。そして、全員で市場変化にも動じない強靱な競争力を備えた企業グループに押し上げていきます。この一年、全員参加で頑張りましょう。

以上